

第四は經濟上の害悪である。歐洲大戰亂が勃發して英國では六百二十五萬人の職業を持つた男子が出征し、四百萬人の職工が他工場から軍需品製造工場に動員された爲めに一時に約千萬人の労働者が必要となつた。之を補充するものは誰ぞ、實に纖弱き婦人であつた。それで開戦初年には二十萬人足らずしか居なかつた英國婦人労働者が一九〇八年には五百萬人を超へて之が千七百種餘りの職業に従事してゐるのであつた。斯うした一時的間に合せの婦人労働者は戦争が済んで男子が歸つて來たからと言つてオインソレその地位を男子に譲るか仕うか又工場主は喜んで女子を男子に代へるか仕うか孰れも甚だ疑問とされてゐた。果然最近の報道に依れば米國紐約州百七十箇所工場に働いてゐた約一萬四千の婦人労働者中、休戦條約締結と

共に解雇され又は辭職したものは六千八百人で全員の半数にも足りない。之れは何故だらうか、言ふまでもなく婦人自身は可成りなるその収入から離れる事を欲せず、工場主は婦人労働者の賃金が男子に比し遙かに低廉で而もその能率は左して遜色がない爲めに離さうとはしないからである。否、遜色がないどころか或種類の工業では女子の方が却つて優つてゐた。現に英國の陸相チャーチル氏の如き彈藥工場に女工を使用した處が、男工使用の頃に比べて彈丸を爆發させる数が減少したといつて男子よりも寧ろ女子の方が能率が高いと云つてゐるさへある。而も之等女子の労働に對して支拂はるゝところは男子の六十五プロセント乃至七十五プロセントである。之では女子を使はぬのが寧ろ不自然といふ事になつて來る。